

## 東大阪 J C 中期運動指針

～ 紡げ 創始の熱き情熱を 織りなせ 歴史の輝きを～

### 【はじめに】

「吾人は青年の特質たる進歩性と、巾広き人類愛とに立脚し青年相互の切磋琢磨によって人格を晋練し正しき世界観を養い以て社会の進歩発展に貢献せんことを期し、ここに布施青年会議所を設立せんとするものである。」この文章は東大阪 J C 創立時の布施青年会議所設立趣意書の一文です。戦後復興の端緒にあった時代に、自らを修練し社会に貢献しようという青年たちの設立時の熱い思いは、東大阪 J C (※1) の輝かしい歴史として連綿と受け継がれ、創立 55 周年を迎えることができました。

J C 運動はその時代に応じて変化しています。青年らしい、そして J C 運動を通じて磨かれた感性で、その時の社会の問題に一石を投じ、地域に変革を起こそうと行動してきました。その姿勢は不変のものです。

今の東大阪 J C は不連続の連続である継続事業を毎年進化させながら継承し、一方でメンバーの研鑽の場である例会を市民に一部公開するなど変化をしています。また、東大阪 J C からフィールドを広げ、地域の各種団体や大阪ブロック協議会・近畿地区協議会・日本 J C (※2) への外部出向も積極的に行っています。しかし、東大阪 J C の運動の源であるメンバー数は減少し続けていることも事実です。また運営面では、公益法人制度改革に対応するために組織運営を変化させなければならない局面にあります。

J C しかない時代から J C もある時代になったといわれます。しかし今も、東大阪 J C の運動には市民や行政、各種団体から期待や感謝の声があり、また自らを向上させ社会の役に立ちたいと門を叩く青年がいます。地域の社会貢献と人材育成に取り組んできたこの東大阪 J C の 55 年間の運動を、これからも明日の青年たちが紡いでくれるよう、60 周年に向けた中期運動指針を策定します。

### 【創立 50 周年記念ビジョンの折り返し地点】

創立 50 周年には 60 周年に向けた記念ビジョンとして「エエまちはっしん基地東大阪」を作成しました。ビジョンの趣旨を確認し、これまで 5 年間をどのように運動してきたかを振り返ることは大切です。そこで、ビジョンに掲げられた理想とする 6 つの目標に対し、東大阪 J C が行ってきた運動をまとめました。

#### ① 一人ひとりが主役となるまち

東大阪市は自治会加入率が高く、J C の提言した市民会議が 36 年以上続き、市民が運営するふれあい祭りが 35 回を数えるなど、市民が主体となったまちづくりを行ってきました。今後もまちに「誇り」が持てるようなまちづくりを進める必要があります。

東大阪 J C としては、リージョンフォーラム 2009 を開催し、リージョン制度について市長や自治協議会会長とフォーラム形式で話し合いました。また、2010 年にはラグビーシンポジウムを開催し、ラグビーのまち東大阪に位置する近鉄花園ラグビー場へワールドカップ開催誘致の必要性について考えました。2011 年には、市内の小中学校対抗大なわとび大会を開

催することで、子どもたちに地域を代表する「誇り」を感じてもらいました。

## ② すばらしい教育ができるまち

教育とは家庭教育、学校教育、地域社会教育の3つの連携が効果を発揮するものであり、東大阪JCは地域社会教育において継続事業を中心に実績を上げてきました。次世代を担う子どもたちのために、学校と地域が役割分担して、すばらしい教育をしていく必要があります。

東大阪JCとしては、継続事業であるわんぱく相撲と夏の青少年健全育成事業を毎年開催し、小学校におけるJC運動の知名度は高いものであります。また、倫理道徳プログラム（※3）を2008年に郷土愛熟成プログラムを東大阪版として作成し、河内木綿の糸を紡いだり、東大阪創作かるたを使った小学校における出前授業を行ってきました。

## ③ 美しさを感じられるまち

自然を畏怖し、感謝しながら美に対する文化を育んで来ましたが、テクノロジーの進歩とともに自然破壊が進みました。地域の大人が環境問題に意識を持ち、良好なまちの環境を整えることが、地域の「誇り」につながります。JCとしても公害防止条例を提言し、植樹運動を行ってきました。我々が自然を大切にし、美しさを感じられるまちを創造する必要があります。

東大阪JCとしては、2008年からクールビズをスタートし、チームマイナス6%へ加入をするなど環境問題に取り組みました。また、東大阪市民環境フェスティバルとはメンバー出向や後援するなど深く関わり、2007年に環境フォーラムとしてC. W. ニコル氏を招いての講演会を開催しました。

## ④ 創造力と夢があふれるモノづくりのまち

高度な技術を持つ企業が集積する東大阪はモノづくりのまちです。その地域の素晴らしさを知り、「誇り」を持つことは大切なことです。そしてモノづくりのまちであるためには子どもたちの創造力を育み、まちに誇りを持ち、東大阪で働くような人材育成システムが必要です。

東大阪JCとしては、郷土愛熟成プログラムの中で「まちのたから」として、東大阪市中企業の集積地であるだけでなく、ナンバーワンの技術を持つ企業が多くある地域として子どもたちに伝えています。

## ⑤ 文化交流の盛んなまち

交流することは己を確立し、他者を理解することです。東大阪の郷土の歴史や文化、風習を知り、海外と交流し、東大阪に在住する他国籍の市民も住みよいまちづくりをすることは、JCの三信条のひとつである世界との友情、それは世界の平和につながることです。

東大阪JCは姉妹JCである台中JCと47年を超える交流を続けており、また大阪で開催された2010年世界大会において東大阪JCがフィンランドJCのホストLOM（※4）となったことによって、フィンランドのオウルJCと友好LOM締結（※5）しました。

また、JCIの世界会議やASPAC、日本JCの全国大会、近畿地区大会においてブース出展をし、東大阪の名産や地域のPRをしてきました。

## ⑥ 魅力ある東大阪JCをめざして

JCの魅力は、たのもしい人が生き活きと集う組織であり、JCで育成された人材が地域社会ネットワークの中心となることが、組織の「誇り」となります。またそれがJCの魅力となるのです。東大阪JCが魅力ある組織として進化することは、「誇りを持てるまち東大阪」の創造に必要なことです。

東大阪 J C は、地域の各種団体に出向することで地域社会の一員としてまちづくり運動をしてきました。組織としても、東大阪市民ふれあい祭り、東大阪市民環境フェスティバル、東大阪市民健康まつりに積極的に協力してきました。また、人材育成のために V M V セミナー、ふれあい祭りのパレードのフロート製作、信太山自衛隊駐屯地での生活体験など各年度の新入会員プログラムを実施してきました。

上記のようにビジョンとともに歩んできた 5 年間でしたが、ビジョンの達成には道半ばです。実施してきた運動は、どれも市民と私たちの意識醸成や体感・体験による意識の変化など効果をあげて来ましたが、まちづくりは一事業ですぐに成し得るようなものではなく、継続的な運動が重要です。よって、東大阪 J C はこれからも 6 0 周年に向け、目標とするまちのすがたとして、「エエまちはっしん基地東大阪」を引き続き記念ビジョンとして掲げ、運動していきます。

しかし、創立 5 0 周年記念ビジョンを引き続き掲げるにあたり、運動の一貫性と変化という一見矛盾することを同時に取り組む必要があります。それは、めざすべき目標に向かうための基本理念と基本指針は各年度に策定されていますが、ビジョンにある 6 つの目標は単年度で達成されるものでなく、ビジョン達成のためには複数年にわたる取り組みが必要だからです。ここで、私たち東大阪 J C は 6 0 周年に向けて中期運動指針を策定し、より創始の精神に立ち戻り、そして今の時代に応じた効果的な運動を展開していきます。

## 【東大阪 J C 中期運動指針】

～紡げ 創始の熱き情熱を  
織りなせ 歴史の輝きを～

### 一．地域にはっしんする J C であること

地域に貢献する形は様々ですが、やはり地域にはっしんする力があるのは事業と地域の団体への出向です。また、三信条の一つに奉仕を掲げる団体として、地域に向けた運動が本質の一つといえます。

しかし、行政や学校などの各種団体と協働して事業を行うときは、事業年度の違いや複数年での運動が必要です。また、継続事業の実施のウェイトが大きくなるあまり、新たな取り組みに踏み出せない現実もあります。

これからは、その年度ごとの特色ある運動と単年度にとらわれない運動を交えることで、効果的な運動を展開していきます。

### 一．研鑽の場としての J C であること

その他の研修機関と違い、J C は組織の運営、例会や事業設営を自らで行うことでメンバーの能力を向上させ、また毎年組織を新しくすることで多くの機会を創出しメンバーが多様な研鑽ができる団体です。そして、深く関わるほど新たな気づきが生まれる素晴らしい組織ではあります。

しかし、メンバー数が減少し、卒業までの平均在籍年数が短くなってきている現状で、各メンバーの自発的なアクションに期待するだけでは、メンバーおよび組織としても機会

を失うことが多く出てくることでしょう。

これからは、研修プログラムによって研鑽から得られる成果を明確にし、各メンバーの意識の変革と、地域の青年経済人の育成・研鑽の場としての位置づけを再び確立していきます。

#### 一．志ある青年の集まる J C であること

まちづくりや自己研鑽や文化国際交流のすべてにおいて、受け身では何事もなしえませんが、J A Y C E E が地域を変革するためのリーダーたらんとすれば、志ある青年が集い、切磋琢磨して互いに高めあうことが必要です。

しかし、現在の経済情勢においては昔のような余裕の持てないメンバーが多いのも現実で、情熱をもって運動するメンバーも、初めから志が高いメンバーであったかといえれば必ずしもそうではありません。

私たち J A Y C E E は、いつの時代も青年であることは変わりません。志を高く持ち、情熱を伝播させ、プラスの連鎖によりアクティブに活動するメンバーの集う J C をめざしていきます。

3つの中期運動指針を縦の糸として紡ぎ、各年度でも基本理念と基本指針を横の糸として紡ぎ、それらを交わすことで運動の結果であるビジョン達成という錦繡を織りなし、これからも輝かしい歴史を創出していきます。

※ 1 「J C」：青年会議所

※ 2 「大阪ブロック協議会・近畿地区協議会・日本 J C」：公益社団法人日本青年会議所とその組織

※ 3 「倫理道德プログラム」：2006年からはじまった日本 J C と各地の青年会議所との協働運動

※ 4 「L O M」：各地の青年会議所

※ 5 「友好 L O M 締結」：日本国内または国外と友好的な関係の L O M として互いに確認すること。東大阪 J C としてはより関係の深い姉妹 J C 締結と友好 J C 締結を行っている。